

# もりのかぜ Vol.8



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で  
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

いおろす (Aeolus) はギリシア神話に登場する「風の神」であり、豊かな森と妖精を合わせたイメージとして生まれたこの冊子のキャラクターです。

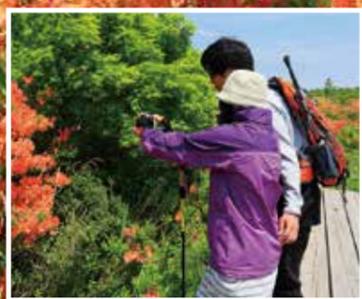
〈CONTENTS〉特集●桑ノ木台湿原 森の名手・名人を訪ねる／2 緑育REPORT／4 市町村の緑化推進委員会を訪ねて／6 GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

鳥海山の三合目付近の山懐。そこに広がる大湿原帯が「桑ノ木台湿原」です。鳥海山を借景とした風景と草花や山野草の豊かな色合いが訪れる人々を魅了します。探勝コースには踏圧から守るために木道が整備されています。

## 桑ノ木台湿原

〈特集〉





# 絵葉書の世界へ

豊かな生態系が 広がる大湿原

「桑ノ木台湿原」は、「湿原植生自然観察教育林」として、約四十三haがレクリエーションの森に指定されており、このうち湿原区域は約十三haとなっています。六月、白い綿帽子をつけたワタスゲや朱色のレンゲツツジが咲く頃、鳥海山を借景とした風景の美しさは絶景です。この湿原は希少な植生や、その生態系から自然度が高い貴重な湿原であり、踏圧を防

ぐために探勝コースには木道が整備されています。一周一二キロの探勝コースの入り口までは見事なブナ林のトンネルが続き、約三十分で湿原に出ます。春はミスバショウ、秋はエゾオヤマリンドウも見応えがあり季節ごとの山野草を眺めながらのトレッキングは癒されるひとときです。



## DATA

- ◆トレッキング適期 / 6月上旬~10月中頃。
- ◆林道約3.3kmを歩くと湿原入り口。林道~湿原入り口までシヤトルバスあり。運行情報は由利本荘市観光協会HP掲載。
- ◆問合せ / 由利本荘市観光文化振興課 (TEL0184-24-6349 ※土日祝を除く) 観光情報案内コーナー (TEL0184-22-2660 土日祝のみ)



朱色と白のコントラストが美しいレンゲツツジとワタスゲの競演



湿原入り口まで気持ちの良いブナ林を歩きます。

◆自然度の高い桑ノ木台湿原

湿原の地面はコケに覆われ、多湿の部分にはアオモリミズゴケ、やや乾いた所にはオオミズゴケが生えています。植生はミスバショウ、ヒオウギアヤメ、ワタスゲ、サギスゲ、サワギキョウ、ヤナギラン、ミズチドリなどで、環境省や秋田県のレッドデータリストに含まれる希少種も多く生息します。モリオカツガ、ヒメギンズジツガや、カラカネトンボ、オビイトンボが生息しており、豊かな自然生態系が広がります。

# 先見の明で緑化に特化 緑化の新たな可能性を追求する 森づくりの名手

三種町の温泉地としても有名な森岳の、緑濃い郊外に田村山林緑化農園があります。鉢物関係だけでも三ヘクタールはあるという広い圃場には多くの種類の苗が育てられ、従業員の方々がその世話や出荷に忙しそうです。訪ねてみて驚いたのが、苗の種類之多さと従業員に若い人が目立つことでした。

## 造林用から緑化用の苗木生産に

田村さんが三代目として家業を継いだのは、まだ二十一歳の時でしたが、当時はまだ戦後から続く造林用のスギ苗木が生産の中心でした。やがて日本はバブル期を迎えますが、その頃には造林用の需要が縮小しはじめ、秋田でも生産者が徐々に減っていききました。一方で緑化関係の需要が伸びてきました。秋田県でも高速道路の建設が進み、北欧の杜をはじめとした公園が続々と整備されていた頃です。海外の公園にも関心が向けられ、グラントカバー・プランツ(地被植物)

も注目されるようになります。

田村さんはこの需要の変化をいち早く捉え、まず平成六年に法人化して経営の近代化に取り組みます。そして生産の主力を緑化用の苗木、特に寒い秋田に合った地域性樹種を重視した生産に切り替えるとともに、広葉樹の苗木や様々な種類のグラントカバー・プランツにも取り組むようになりました。



秋田の気候に適合した耐寒性植物を栽培

## 有限会社

## 田村山林緑化農園

## 田村 政則氏

### 全国植樹祭を変えた？

田村さんの先見性を語る上で一つ面白いエピソードがあります。田村さんがハマンズの苗の生産に取り組んだ際、市場が要求する葉張り・高さの規格に適合した生産に苦戦していました。そこでハマンズの生産を従来のポリ容器から、生分解性容器を使った地中栽培にしたところ、規格品の生産が短期間で可能となったそうです。この生分解性容器(ポット)を生産していたのは大阪のメーカーですが、苗の生産に導入したのは田村さんが秋田県で初めて、全国でも最も早い農園の一つだったそうです。



生分解性容器を用いたスギ苗木

平成二十年、天皇后両陛下をお招きした第五十九回全国植樹祭が北秋田市の北欧の杜公園で開催されました。その準備段階で、とある用事で県の職員が田村さんの会社を訪ねた際、見馴れない生分解性容器が使われていることに気づきました。それが一定の時間を経過すると土に還るエコロジカルな製品であることを知った県職員は、植樹祭に使用するのに最適だと考え、林業県秋田の全国植樹祭で初めて生分解性容器が採用されたのです。

これ以降、全国植樹祭では生分解性容器が必ず使われるようになり、大阪のメーカーはきっかけを作ってくれた秋田県と田村さんにとっても感謝をしたそうです。

### 若い人が魅力を感じる職場へ

田村さんが「森の名手・名人」に選ばれたのは、もちろん緑化と苗木生産で先進的な取り組みを続け、各地で講演・技術

指導などを行うなど森づくりに大きく貢献してきたことによります。少し意地悪な質問ですが「ご自分では何が評価されたと思いますか？」と尋ねたところ、「技術というより雇用を含めた総合的な面でしょうか」と意外な答えが返ってきました。

田村山林緑化農園の従業員は現在二十三名。そのうち十代が一人、二十代が四人、三十代が二人と、若い人が多いことに驚かされます。面接の時、田村さんが志望動機を聞くと、ある若者が「福利厚生が充実しているから」と答えて驚いたそうです。田村さんとしては、農林業への豊富な経験を持つ中高年の女性も雇いたいと考えていて、決して若者だけを重視している訳ではないのですが、しっかりと会社組織を整えることで二次産

業が若い人たちの雇用の受け皿となりえることを示唆しているように思えます。同社のホームページはデザイン的にもしっかりと作っていますが、若い社員の方が担当しているとか、「ホームページがなくて、まともな会社として扱ってもらえない」と感じていた田村さんも、積極的に仕事に取り組み若者を頼もしく感じているそうです。

雇用した若者が辞めた人は一人もいないそうです。「きちんと給料を払えば、農林業は若者が来ない分野ではない」と語る田村さん。その言葉には、農林業の可能性を追求してきた自信が感じられました。



広大な圃場にはグラントカバー・プランツをはじめ、緑化用の苗木から広葉樹・針葉樹の苗木などが豊富に育つ。



安定した雇用体制で若い世代が定着



### 田村 政則さん

(平成23年度 森づくり部門)  
昭和32年生まれ。大学在学中に父親が亡くなり、若くして家業を継ぐ。造林用のスギ、クロマツを主力にしながら緑化用の苗木生産に取り組み。近年は広葉樹のポット苗木生産にも力を入れ、様々な種類の優良種苗木生産に取り組み。NPO法人あきた自神の森倶楽部会員。中国甘粛省での植樹活動にも関わり、教度にわたり渡航している。

有限会社 田村山林緑化農園  
〒018-2303 山本郡三種町森岳字寒城野2-6  
TEL 0185-83-2705 FAX 0185-83-2009



# 緑とともに育つ・育てる

## 《緑育REPORT》

### MV東北秋田 緑の少年団

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林等を中心とした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解を深めるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育活動の中から、今回はMV東北秋田緑の少年団を紹介します。

緑の少年団は、ほとんどが学校単位で結成・活動されてきました。ところが少子化による団員数の減少、学校統廃合による団数の減少がすすみ、近年その活動は低調になってきました。そんな中、活発な活動を続けて注目されているのが「MV東北秋田緑の少年団」です。

#### 企業を母体とした組織から 緑の少年団へ

MV東北秋田緑の少年団は、「子どもエコクラブ」を母体として結成されました。同クラブはもともと民間企業(MV東北)の社員と関係者の子どもたちが、自然と親しむ活動を行う目的で始まった団体です。メンバーは秋田市、横手市等の小学生、幼児(三歳以上)約四十名です。世代交代を繰り返すうちに口コミで活動に参加する

#### 学校とは異なる目的と手法

MV東北秋田緑の少年団の活動目的は、

- ①「教育」ということを前面に出さない。
- ②「遊び」ながら「学び」と「子どもの育成」。
- ③「学校」という「枠」から抜け出して、多種多様な活動をする。

その目的の手段として、様々な専門家との連携・支援保護者の理解と協力を仰ぎ、緑化推進委員会をはじめ、企業・行政等による活動助成金を活用するというものです。学校を母体とする緑の少年団とは明らかに異なるアプローチで森林環境教育に当たろうとしているのが分かります。

#### 参加者を飽きさせない バラエティ溢れる活動

スポーツ少年団などの「ライバル」に負けず、新たな参加者を集めつつ少年団を継続するには、何よりも飽きさせない魅力溢れる活動を積極的に行うことです。例として昨年の活動「GREEN UP/自然と文化 驚異の旅 in 秋田2015」を紹介すると…

- ①「二百五十歳の杉を探せ!」(能代市にある日本一高い杉を訪ねる)
- ②「武士の内職を体験せよ!」(大館曲げわっぱの製作体験)
- ③「耳を澄ませ!力を合わせ!」(緑の交流会で福島県の少年団とも交流)

- ④「鳥海山の不思議と出会う!」(鳥海マリモノの生態を観察)
  - ⑤「企業秘密を説明せよ!」(ツリークライミングを体験)
- 聞いただけでワクワクしてくるような活動が目白押しです。



初めての曲げわっぱ作りにみんな真剣です



親子木工体験



秋田杉の美しさと圧倒的な迫力に目を見張る子どもたち



すぐに馴れてクライミングを楽しむ子どもたち  
樹齢120年のケヤキの大木も格好の遊び場に早変わり

#### 生き生きと参加する 子どもたち

取材当日は、昨年の活動にもあった「ツリークライミング」の体験を行っていました。あいにくの雨にもかかわらず、樹齢百二十年ほどのケヤキの大木の枝にぶら下げられたロープを使い、自分一人の足と手の力だけで最大八メートルの高さまで上り下りをします。

小さな男の子や大人しそうな女の子も、はじめは戸惑いながらもすぐに馴れて、グングン上っていきます。そこには子どもたちの笑顔が溢れていました。

育成会の小山澄子代表は、子どもたちが見て、感じて、考えるアクティブラーニングの継続と必要性を感じているそうです。また、子どもたちにとって必要なことは「機会を与えること」で、自ら持っている学びの力を発揮できるといい、そのためにも様々な角度からネットワークを活用・構築したいと語っていました。

SERIES



# 市町村の 緑化推進委員会 を訪ねて

## 第2回 八峰町緑化推進委員会

県内各市町村の緑化推進委員会は、(公社)秋田県緑化推進委員会の正会員として、ともに協力して地域の皆さんに緑の募金をお願いし、それをもとに生活環境の緑化、森林ボランティア及び緑の少年団等の育成等に取り組んでいます。シリーズでその活動をご紹介します。

### 世界自然遺産とジオパーク を抱える自然豊かな町

八峰町は、平成十八年に八森町と峰浜村が合併して誕生した町です。規模としてはとてもコンパクトな町ですが、世界自然遺産・白神山地に接し、また平成二十四年に日本ジオパーク委員会から八峰白神ジオパークが認定されるなど、豊かな自然に囲まれた町として知られています。そして昔から、日本海に面した海の幸に恵まれた漁業や肥沃な農地が広がる農業とともに林業が盛んな土地柄でした。また藩政時代には資源・環境保護のため、伐採を禁じられた「留山」が設定され、その存在は住民の誇りとなっています。自然環境は、歴史的にも、住民の緑に対する意識が高い地域となっています。

### 際どい募金の達成率

合併前の八森町の山林は、町有林、国有林が多くを占めており、一方峰浜村には村有林が少なく、財産区や個人所有の山林が多くを占めていました。そのため、当初は住民の山林に対する意識にも違いがあったようです。しかし合併から十年が経過するなか、緑化推進委員会の地道な啓蒙活動と民間ボランティア団体の活躍もあって、次第に町民の多くが山林・緑の大切さが共通の認識として育ってきました。そこには豊かな農地と海の幸をもたらす日本海、その環境を育んでくれる世界自然遺産・白神山地への誇りがあったことは



### 住民のニーズに対応した 苗木の配布

町内緑化推進事業では、苗木の配布を行っています。町の公共施設、福祉施設、学校、自治会などが主な対象ですが、かつて要望が多かったサクラの植樹などを望む声は少なくなり、今年は新たな試みとして、田中自治会館に隣接した広場に対してイフトン芝という繁殖力が旺盛で踏み圧に強い品種の芝を植えました。ブルーベリーやラフランスなどの苗を配布したこともあり、需要の変化を捉えて様々な試みを進めています。

山火事防止キャンペーンでは、主な林道の入口四方所に横断幕を設置して注意を喚起しています。

### ボランティア団体との連携を模索

八峰町には「白神ネイチャー協会」と「海と川と空の塾」という二つの森林ボランティア団体があり、活発な活動を継続しています。小さな町でボランティア団体が複数活動しているのは、県内でも珍しいとのこと。これらボランティア団体が果たしてきた森林をはじめとする自然環境への理解の促進は大きなものがあります。

八峰町緑化推進委員会は事業を直接行う団体ではなく、あくまで普及・啓発のための団体で、出来る活動に限りがあります。そこで、今後は民間ボランティア団体との連携した活動、具体的には募金活動への参加の呼びかけが課題として考えられるところです。また、ボランティア団体に

言うまでもありません。八峰町緑化推進委員会の主な活動は、緑の募金活動、町内緑化推進、山火事防止運動等で、県内各市町村の緑化推進委員会とほぼ同じとなっていますが、中でもメインの活動は緑の募金活動になります。

今年も緑の募金街頭キャンペーンを五月四日に道の駅みねはまの「おらほの館」前で行いました。あいにくの雨模様でしたが、推進委員の方々はもちろん八峰中学校の生徒さんたちも参加して熱心な呼びかけで、多くの方々からご協力をいただくことができました。募金活動は毎年目標金額を設定して行っていますが、八峰町の場合、永年にわたり非常に高い達成率を誇っており、全国的に見ても常に上位に位置しています。



緑の募金をしてくださった方に花苗を差し上げる八峰中学校生徒のみなさん



水沢ダム(峰水湖)は林野庁「水源の森」百選  
水沢ダム(峰水湖)へ向う道沿いに続く美しい桜並木。八峰町緑化推進委員会の事業の一つで、剪定が行われている。



八峰町緑化推進委員会の助成を受けて植栽された田中自治会館広場のヒマラヤ杉



母谷山へ向う林道脇に設置されている山火事防止の横断幕



八峰町は白神山地が目に迫る町

# 鳥海グリーンライン 鳥海山・山裾に遊ぶ



鳥海山の山裾、鳥海ブルーラインに続く  
県道58号から県道312号を通る猿倉温泉までのルートは  
「鳥海グリーンライン」と名付けられています。  
豊かな水を湛える滝や湧水地、高原に広がる牧場やレジャー施設など  
鳥海山の恵みを堪能できるエリアです。

## にかほエリア——仁賀保高原とその周辺

### 苔と飛沫の優美な絵模様 元滝伏流水②



鳥海山の伏流水が集まり巾30mもの苔むす岩肌一帯に流れ落ちる滝。「平成の名水百選」

### 「国の名勝」豪快な景観 奈曾の白滝③



鳥海山の雪解け水が集まり流れ落ちる名瀑。高さ26m、幅11m。

### 神秘的森をトレッキング

#### 中島台 レクリエーションの森④

世界的に貴重な苔類が絡まり合ってボール状に発達した「鳥海マリモ」や、鳥海山・伏流水が勢いよく湧き出る「出つぼ」、幹周7.62mの奇形ブナ「あがりこ大王」などがある神秘的森。一周5kmの散策コースがあります。



### 高原に広がるレジャー・スポット 仁賀保高原⑤

標高500mの丘陵地帯に大小の湖沼、湿原が点在し、食事休憩施設・キャンプ場・7.5kmのサイクリングロード・牧場などの施設がある人気スポット。



豊富な水が育む乳製品 土田牧場  
ジャージー牛の放牧場は牧歌的な風景。自家製の牧草で育てた牛の乳製品、肉製品は格別の味。食事施設や売店、動物ふれあいコーナーもあります。☎0184-36-2348



牧場レストランでは焼肉やすきやきを楽しめます。

にかほエリア・観光の問合せ／(一社)にかほ市観光協会 ☎0184-43-6608

### 鳥海山・九十九島を望む観光拠点センター

## にかほっと!

道の駅象潟「ねむの丘」に隣接する「にかほっと」。  
秋田県内、庄内地域の観光情報を発信!!



### お食事・休憩・お買物にどうぞ!!

- 海の幸、山の幸、花卉、特産品販売
- 多彩な飲食ブース ● 公衆無線LAN
- キッズルーム ● フードコート
- 足湯「あしほっと」等

にかほ市観光拠点センター「にかほっと」 ☎018-0121 秋田県にかほ市象潟町字大塩越 36-1 営業時間／朝 9:00 ▶ 夜 9:00  
TEL0184-43-6608 / 問合せ (一社) にかほ市観光協会 休業: 毎月第3水曜日(7月8日は無休)

## 由利本荘エリア——鳥海高原とその周辺

### 大自然の中で乗馬を楽しむ ゆり高原ホースパーク⑥



抜群の環境の中で初心者の引き馬体験から高原をめぐる上級者のホーストレッキングまで存分に乗馬を楽しめます。乗馬は要予約☎0184-53-9122

### 大谷地池を中心に広がるレジャーエリア 南由利原高原青少年旅行村⑦



鳥海山が「さかさ鳥海」として映し出される大谷地池を巡るサイクリングロードは全長10km。また周辺にはオートキャンプ場やバンガローなどの施設やプラネタリウム、天体観測を楽しめる「コスモワールド」があります。☎0184-53-2126(管理棟)



### 大自然の中で家族で楽しめる一大エリア 鳥海高原 花立牧場公園⑧

搾乳、えさやり体験ができる花立牧場、ポニーと触れ合える「ポニーランド花立」、そこに併設されている「アルピオン乗馬クラブ」では本格的な乗馬体験を楽しめます。



花立牧場／搾乳、えさやり体験は要予約 ポニーランド花立／乗馬は要予約  
☎0184-27-5111 ☎0184-55-2711



鳥海高原でのホーストレッキング体験



コテージ周辺の全長約3kmの間伐材チップロードでは、景色を眺めながら散策を楽しめます。



豊かな自然の中のリゾート  
猿倉温泉郷⑨  
鳥海高原の周遊拠点。四季折々豊かな自然に包まれた癒しの湯。日帰り入浴もできます。  
● フォレスト鳥海  
● 休養宿泊施設 鳥海荘  
● ホテルまさか

由利本荘エリア・観光の問合せ／由利本荘市観光協会 ☎0184-24-6376



### 木質ペレット燃料

## ペレッコ

### 秋田の長い冬、ペレッコで快適に!!

環境にやさしく、灯油よりも低コストな燃料、ペレッコ  
間伐材や製材端材を原料とするペレッコは  
地球環境にやさしいエネルギーとして注目されています。  
この冬、ペレットストーブ+ペレッコで暖かく快適に—!!

お買い求めは販売代理店まで!!

【販売代理店】  
株式会社 ウチヤ機械テック  
本社・整備工場 由利本荘市矢島町七日町字曲淵152-1  
TEL 0184-56-2501(代) FAX 0184-56-2729  
E-Mail uchiya-1@ont.ne.jp  
本荘営業所 TEL0184-22-7725 FAX0184-22-1188

【製造元】  
Y 矢島木材乾燥株式会社  
由利本荘市矢島町七日町字下山寺 42-2  
TEL 0184-56-2500 FAX 0184-55-2539  
E-Mail mokkan@yashima-f.co.jp  
http://www.yashima-f.co.jp

# あきた 緑化の足跡



## 平成9年5月15日 第48回秋田県植樹祭開催地 ― ふれあい梅林広場《三種町》

旧琴丘町金仏ふれあい梅林広場(1.2ha、現三種町)で、第48回秋田県植樹祭が開催されました。

参加者は寺田典城知事、工藤正吉琴丘町長、田村圭三町議会議長他、1,200名です。

植樹祭のメインテーマは「未来まで できく育て この苗木」。

式典会場は琴丘中学校体育館。琴丘中学校の生徒がキジ200羽を記念放鳥しました。

旧琴丘町の「町の木」は梅。「町じゅうを梅の香りでいっぱい」とい

う町民の夢をのせて、気候風土に適した「藤五郎」、「越の梅」、「白加賀」など5品種700本が植樹されました。

植栽地周辺は梅公園として整備され、5.3haの公園に約2000本の梅の木があり、「春風に香りも高い梅公園」の句が刻まれた記念碑が、梅の木の成長を見守っています。

梅の開花期(4月中旬～5月中旬頃)は観梅会が開催され、夕方から

はライトアップされます。

梅の収穫時期(6月中旬～7月上旬)には、現地でもぎ取り販売会があり、「道の駅ことおか」では直売会を開催します。

三種町琴丘地区の特産品である梅は、梅ジュース、梅ワイン、梅羊羹などの梅加工品となって農産物直売所「グリーンぴあ」で販売されています。

また金仏梅公園周辺はクアオルト(※ドイツ語で健康保養地の意味)ウォーキングコースが整備されています。緑そよぐ中、澄んだ空気を吸いながらマイペースで「健康づくり」はいかがでしょう。



起伏に富んだコースは健康づくりに最適

# Photograph この一枚

## 栗沢の千本カツラ【由利本荘市】



このカツラは由利本荘市鳥海町栗沢集落の山合の急斜面、小さな沼の縁に自生しています。幹周十八m、樹高三十m、樹齢は八百年といわれる大木です。カツラは湿り気のある所を好むため、河辺や沢沿いなどに多く、高さは二十五m〜三十mにもなる高木性の樹木です。単独の幹が太くなるものよりも、多数の幹が叢生する傾向にあります。栗沢のカツラも支幹が多数伸び、一つの木をなしている姿から千本カツラと呼ばれています。また、うねるように

伸びる支幹がへびを連想させるため、別名「蛇喰の千本カツラ」とも呼ばれています。周囲の樹木とカツラの間にはスペースがあり、どの角度からもカツラを眺めることができます。秋田県の天然記念物であり、平成二年に「新日本名木百選」に選ばれています。堂々たる樹姿は森の王者の威厳が漂い、自然の驚異を感じさせるカツラです。付近には案内表示や駐車場が整備されています。

## 樹木たちの声に 耳をかたむけてみませんか。

公益社団法人秋田県緑化推進委員会が実施した調査をもとに、秋田県内の誰でも観察できる巨樹・古木277件を厳選しました。樹木の写真・データ・地図に、由来などを紹介するやさしい解説を添えたガイドブックです。

# 秋田の巨樹・古木

編集発行 公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

定価 1,543円(税込) おもとは最寄りの書店、または秋田文化出版(TEL.018-864-3322)

巨樹・古木  
277本  
掲載!!

数百年の歳月を越えて



もりのかぜ・ねっと

緑の募金大使「森っち」

# INFORMATION



緑の募金  
シンボルマーク

## 緑化推進委員会の主要事業

### 「緑の募金」運動の推進

- **地域緑化活動支援**  
市町村等が行う緑化イベントへの支援
- **緑化思想の啓発**  
チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰
- **県民参加の森づくり推進**  
森林祭等開催、市民グループ森林づくり活動支援

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災被災地のみどりの再生支援を行っています。

～緑の募金運動を広く展開し、それを主な原資として次のような事業を推進しています。～

- **森林ボランティア育成**  
スタンラリー、活動支援、リーダー養成
- **名木・古木等の保護**  
診断、調査の支援
- **国土緑化運動**  
国土緑化推進機構連携事業、東日本大震災被災地支援、公募事業
- **緑の少年団等育成**  
交流集会、学校緑化コンクール、活動支援、学校緑化、子供木づかい体験(つみ木のプレゼント)
- **緑化表彰**  
各種緑化功労者、学校緑化コンクール等の表彰
- **公募による緑化活動の支援**  
国土緑化推進機構及び県緑推の公募による緑化活動の推進

**ダイドードリンコ(株)では、**  
環境貢献として飲料自動販売機による「緑の募金」活動に協力しております。

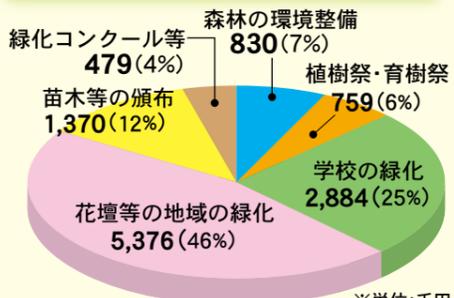
「緑の募金自販機設置」のお願い  
新規設置の自動販売機が対象です。設置、ご紹介の協力をお願いします。

**目印はこのパネル!!**  
この自動販売機の収益金の一部は、「緑の募金」に寄付されます。



## 緑の募金は、こんなことに使われます。

市町村では、「緑の募金」をこんなことに役立てています。(平成27年度)



※計11,698千円

※地域緑化推進事業のうち、活動推進費、資材購入費、推進事務費を除いた緑化活動費の内訳です。

平成27年度の「緑の募金」  
募金実績

**29,529**千円

緑化の普及啓発 各種緑化行事への協賛

県民参加の森づくり支援

平成28年度の「緑の募金」  
目標額

**35,000**千円

## もりのかぜ

Vol.8

編集・発行

平成28年10月1日(土)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会  
〒010-0941 秋田市川尻町字大川尻170-169 森林環境会館内  
TEL018-883-0815 FAX018-883-0816  
[Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp  
URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作

有限会社 バレア

〒010-0951 秋田市山王7丁目5-10  
TEL018-896-7225 FAX018-883-0004

## 編集後記

今年から8月11日は「山の恵み」「森の恵み」に感謝する「山の日」として祝日になりました。山の日は、一年で一番暑く山に登るにははんどい時期ですが、お盆直前の祝日のおかげで長めの夏休み休暇が取りやすくなり大歓迎です。一足先に「海の日」が制定されているので、「山の日」とをつなぐ「川の日」も出来るのかなと期待してしまします。四方を山に囲まれて育ち、子どもの頃から山登り、山菜採り、沢遊びなど山野を駆け巡っていましたし、楽しみだった祭りや行事の背景にも「お山」があったので、山への畏敬の念や森の恵みへの感謝の心などが、自然に備わっていた気がします。山に降った雨や雪は、ミネラルに富んだ清流となって流れ下り、私たちの命・生活の糧となり、耕地を潤し豊かな海を育ててくれます。おいしい山の空気はストレスを和らげ心の安らぎ与えるなど、山は様々な恩恵を与えてくれます。「山の日」の制定を契機に、「山の恵み」がいつまでも享受できるような努めなければと思ひ巡らせています。

## みんなが森林の応援団!! 緑の募金

への協力と森林づくりへの参加をおねがひします。  
■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。



募金期間

春季 4月10日～5月31日

秋季 9月1日～10月31日

実施主体 / (公社) 秋田県緑化推進委員会  
市町村・市町村緑化推進委員会

緑の募金でふせごう地球温暖化

## TOPICS



### 平成28年度秋田県緑の交流集会を開催しました!!

秋田県立保呂羽山少年自然の家

2016年8月8日(月)～9日(火)、「平成28年度秋田県緑の交流集会」を秋田県立保呂羽山少年自然の家(横手市大森町)で開催しました。

小学3年生以上の子どもたち41名が参加しました。



猛暑の中、まずは、「緑の野山でふしぎ体験」です。プラザクリプトン・インストラクターや森の案内人と自然観察をしながら、追跡ハイキングを行いました。暑い中のハイキングで、「パテチャウの

では?」という大人の心配をよそに、子どもたちは、「山や木のことをよく知れた!」「歩くのはつらかったけど、楽しかった!」と、不思議な葉っぱや枝など、おみやげを持って元気に帰ってきました!

夕方、薄暗くなった頃、「ナイトハイク」の開始です。ハイキングコースを、懐中電灯を持って、森の探検です! 時々、コースから「キャーッ」という声が響き渡り、スリル満点のハイキングです。「ホテルがきれいだったー」「暗いけど生き物がたくさんいて、おもしろかった」と、疲れも見せず大はしゃぎでした。

2日目は、カヌー体験です。農業用ため

池「六沢堤」で体験です。ライフジャケットを着用して、さあ、カヌーに乗り込んで出発! 意外とみんな上手に乗れるもので、スイスイと進む様子に、見ているだけで涼しくなりました。「少し怖かったけど、楽しかった」「びっくりかえったけど楽しかった」とピカピカの笑顔でした。

2日間を振り返り、「生き物をもっと見て図鑑で調べたい」「植物についてももっと調べてみたい」「もっと森に親しみたい」などと、自然への興味がわいてきたようです。まさに水と緑を愛する心を育むことができた2日間でした。



初めてのカヌー体験も、みんなスイスイと楽しんだ。



ピカピカの笑顔で終えた交流会

## MEMO

- 1月23日(土) ● 秋田市で「冬の森林祭2016」後援写真展「日本の森林いまむかし～蘇る山々の緑」、積み木ワークショップを開催
- 3月24日(木) ● 「(公社) 秋田県緑化推進委員会 第45回通常総会」開催
- 4月29日(金) ● 秋田駅前「緑の募金街頭キャンペーン」開催 ● 農林中央金庫秋田支店が、募金や緑化活動の支援グッズとして「花の種」を寄贈
- 6月5日(日) ● 長野県長野市で第67回全国植樹祭
- 7月9日(土) ● にかほ市象潟で「2016あきた水と緑の森林祭」開催
- 8月8日(月)～8月9日(火) ● 横手市大森町 保呂羽山少年自然の家で「秋田県緑の交流集会」を開催
- 8月18日(木) ● 「森の名手・名人」に2人の方を推薦し、選定された羽後町 村上 賢助(芽屋根葺き) 大仙市 安田 幸蔵(家具製造工)

- 8月27日(土)～8月28日(日) ● 秋田市御所野イオンモール秋田で「ウッドファーストあきた」後援、積み木ワークショップを開催
- 9月2日(金) ● 全国学校緑化コンクールに推薦 学校環境緑化の部: 由利本荘市立大内中学校
- 9月16日(金) ● 大仙市協和船岡及び秋田市河辺岩見で「中通小学校林業体験学習」を開催
- 10月1日(土)～10月2日(日) ● 北秋田市いとく鷹巣ショッピングセンターで「ウッドファーストあきた」後援、積み木ワークショップを開催
- 10月9日(日) ● 京都府南丹市で第40回全国育樹祭
- 10月11日(火)～10月14日(金) ● 横手市、仙北市、大仙市で「森の教室」を開催
- 10月22日(土)～10月23日(日) ● 美郷町総合体育館リリオスで「ウッドファーストあきた」後援、積み木ワークショップを開催

平成  
28年度

# ウッドファーストあきた 木材利用ポイント事業

県産材  
を使って

## 最大30万円相当のポイントがもらえます!!

ウッドファーストあきた木材利用ポイント事業とは

県産材で家を建てたり、ペレットストーブ等を購入するとポイントが発行され、そのポイントを県産品や助成金と交換する事業です。

県産材を  
構造材・下地材に  
使用した住宅

県産材を  
内・外装材に  
使用した住宅

新品のペレットス  
トーブや県産木製品  
等を購入した場合

ポイント獲得

県産品・助成金との交換!!

木材利用ポイント  
の発行対象

★平成28年4月1日から平成29年1月31日までに自宅・新築又は購入や、ペレットストーブ等の購入が対象となります。

※ポイントの発行・交換には、条件がありますので詳しくはお問合せください。

申請期間

平成28年7月1日(金)～平成29年2月10日(金)

●ポイントの申請は、住宅の完成後、ストーブ、木製品等の購入後になります。  
●この事業は、予算額に達した時点で終了となります。

秋田県公式ウェブサイト 美の国あきたネット <http://www.pref.akita.lg.jp/>

ウッドファーストあきた 2016

検索 

問合せ先

秋田県木材産業協同組合連合会  
秋田県林業木材産業課

TEL:018-837-8091  
TEL:018-860-1915